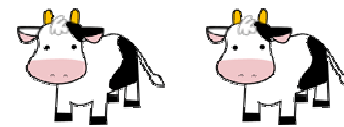


岡崎市の乳用牛



乳用牛とは、家畜化された牛のうち、特に乳が良く出るように品種改良された牛のことを指し、日本ではホルスタイン種がよく知られています。体重600kgの牛は毎日20Lほどの牛乳を生産するのに、乾燥や穀物類などを合わせたエサを1日に30kgほど食べます。岡崎市内でも各所で酪農が営まれており、牛乳は岡崎市のブランド化推進品目にも指定されています。

飼育頭数

岡崎市内では、550頭以上の乳用牛が飼育されています（生産者のみ、牛の種類は成牛の乳用雌牛）。（平成27年2月1日現在）

乳牛の働き

子牛を出産後、約300日間搾乳されます。乳用牛は本来、出産後約1年間乳を出しますが、次の産後の搾乳に向け、乳腺組織や母体の体力回復のために、次の出産前の約2ヶ月間ほど搾乳を中止します（乾乳）。乳牛には雄牛もいますが、乳は出ません。種牡に適さない雄牛や、乳の生産量や繁殖力が下がった雌牛は最終的に肉牛や革製品などに利用されます。

種付け

種付けのほとんどは人工授精で行われ、精液はストロー（試験管）の中に保存されています。種付け用の精液を採取する雄牛を「種雄牛」といいますが、限られた場所でのみ飼養されていないため、普通の人が見る機会はありません。

乳用牛の種類

- ホルスタイン種・・・オランダ原産の大型の牛で、正式にはホルスタイン・フリーシアン種とよばれる。毛色は黒と白の斑文で、全黒に近いものから全白に近いものまで様々。温厚な性格で寒さに強く、暑さに弱い。乳量が多い、乳脂肪率が低い、搾乳速度が速い、と乳用牛として優れており、日本で飼育されている乳用牛の99%以上はホルスタイン種です。
- ジャージー種・・・英仏海峡諸島中のジャージー島原産の小型の牛で、毛色は白に近い淡褐色から黒っぽい濃褐色まで様々。気候の変化や耐暑性も比較的強く、性格はやや神経質。乳脂肪率が高いため、黄色味が強く、風味が良いです。
- ブラウンスイス種・・・スイス原産の中型の牛で、毛色は灰褐色の乳肉兼用種で、性格は温厚で頑丈。タンパク質が多くチーズの加工に適しています。
- エアシャー種・・・イギリス原産の中型の牛で、毛色は赤と白の斑文。強健で環境適応性に優れ和牛の改良にも広く用いられた。タンパク質が多くチーズの加工に適しています。
- ガンジー種・・・英仏海峡諸島のガンジー島原産の小型の牛で、毛色は淡黄色あるいは赤色に白の斑文で様々。環境適応性に優れ、黄色味が強く、風味が良いほか、乳脂肪分も高い。日本での飼育頭数は希少です。

市内生産者の取組み

家畜伝染病などの予防に取り組んでいる他、毎年11月に乙川河川敷で開催される岡崎市農林業祭、毎年2月頃に市内産直施設で開催される畜産フェア等で牛乳の普及促進に努めています。



ホルスタイン種